

## 第2学年道徳学習指導案

日 時 平成16年10月 6日(水) 4校時  
学 級 2年(男子11名 女子12名 計23名)  
指導者 教 諭 西 井 栄 幸

I 主題名「真の友情」 内容項目 2-(3) 信頼・友情  
資料名「あるピエロの物語」 出典「かけがえのないきみだから」学研

### II 主題について

#### (1) ねらいとする価値について

本主題は、中学校の内容項目2-(3)「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。」に基づいて指導するものである。

真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、その根底には、互いに他を敬愛する念がなければならない。そのためには、まず相手に対してともに生きる人間としての共感的な理解をもつことが求められる。こうした前提があってこそ、人間関係の深い信頼と、常に変わらない敬愛が期待され、同時に、相互の向上を目指した友情も深まりを見せる。

中学生の時期における友達の在り方は、人間的な成長に大きな影響を及ぼす。しかし、現実には、ただ単に気が合うと言った表面的な仲間意識に終始しがちで、友達の心の内面にまで目を向けることは少ない。そこで、この時期に、ともするとその場限りの享乐的な関係に陥りがちな実態を打破し、互いに信頼と敬愛に支えられ、共に語り、悩み、共感し、そして励まし合い高め合うことのできる真の友情を育てていきたいと考える。

#### (2) ねらいにかかわる生徒の実態について

今年の6月に実施した道徳適性検査の結果を見ると、内容項目2-(3)については、A(十分発達)4名、B(おおむね発達)13名、C(発達が不十分)6名とあまり思わしくない結果が出ている。

学級の生徒は、素直で人なつっこい子どもが多く、男子、女子にかかわらずおおむね仲のよい学級である。一学年一学級のため、二学年に進級する際のクラス替えがなく、友達関係は固定されたものになっている。多くの生徒が仲のよい友達をもっており、そのほとんどが同じ部活動に所属している。友達との付き合いは、「休み時間におしゃべりをする」とか「休みの日に一緒に遊ぶ」など、集団を好み、感覚的な付き合い方をしている。「相手の内面的なよさに目を向ける」とか「互いに励まし合い、忠告し合う」、「人生について語り合う」など、深く相手にかかわっていかうとする姿勢はほとんどみられない。そのため、感情の行き違いや考え方の食い違いなどから、せっかく築き上げてきた友達関係が台無しになることもある。

そこで、このような子どもたちの価値意識を高めるためには、真の友情の在り方や友情の尊さについて深く理解させ、友情を今よりもいっそう確かなものにしていかうとする意欲を高めていくことが必要であると考えます。

#### (3) 資料について

本資料は、性格の異なるサムとトムの友情を軸にした物語である。真に相手のことを思って心を開いて忠告し合い、互いに高め合っていくことの難しさが端的に示されており、改めて自分の問題として「信頼・友情」の在り方を深く考えさせることができる資料である。

サムは、サーカスでピエロを演じて売れっ子だったが、当初は消極的で友達もなく、寂しい毎日を送っていた。そんな時、陽気で何事にも積極的なトムと出会い、大の仲よしになった。しかし、調子に乗りすぎるトムは次第に団員たちから悪評がたち、親友であるサムは炊事長からトムに忠告するように勧められた。このような場面設定は、生徒たちにとって状況こそ違いますが、身近な自分自身の問題として考えを深めさせていくことができる資料である。

### Ⅲ 指導の構想

#### (1) 授業の概略

導入では、「心のノート」を活用し、「理想とする友達」について考えさせることで、ねらいとする価値についての自分の考えを明らかにさせたい。

展開では、資料にそって授業を進める。長文資料なので、資料を事前に読ませておき、内容を十分に理解させておきたい。また、資料の範読については、トムに忠告をしなかったサムが、トムに責められ、深く反省する場面までを前半、それ以降を後半とし、二分割して提示する。また、生徒が考える時間を十分に確保するため、発問に関わる場面のみを範読とする。資料の前半部分を範読後、最初の発問では、友達が悪いことをしている時に忠告することのできないサムの心の弱さに共感させるとともに、自分にもそのような心の弱さがあることを押さえさせたい。次の中心発問では、サムにも真の友情を求める心があり、トムの気持ちに伝えていきたいという気持ちが芽生えることに気づかせたい。また、だれしもが真の友情を求めていることを押さえさせ、ねらいとする価値に迫りたい。その後、後半部分を範読する。最後の発問では、トムからの忠告を素直にきき入れなかったサムについて考えさせることで、心の弱さを乗り越えて、真の友情を築いていくことの大切さに気づかせたい。

終末では、本時の授業を通して学んだことを各自に書かせ、真の友情を築いていこうとする意欲をもたせたい。

#### (2) 研究仮説とのかかわり

##### ① 「心のノート」を活用する。

事前に、「心のノート」P48の「互いを高める友情はどこにある？」の空欄に、自分の考えを書かせることで、価値への方向づけをしておく。

##### ② 資料の読み取りの工夫をする。

朝自習を活用し、資料を事前読みさせることで、資料の内容を十分に理解させる。

##### ③ 考えをまとめて書かせる工夫をする。

ア. ワークシートを活用し、中心発問に対する考えを書かせる。

イ. 本時の授業を通して学んだことを終末に書かせる。

IV 本時の展開

(1) ねらい

真の友情を築くためには、どのような努力をすべきかを深く考え、互いに心を開き、高め合っていくことの大切さに気づかせる。

(2) 展開

	主な学習活動	○発問 ・ 予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1. 「理想とする友達」について考える。	○あなたが理想とする友達とはどのような人ですか。 ・自分の欠点を指摘してくれる人 ・励まし合える人 ・信頼できる人	・『心のノート』P.48を活用する。 ・生徒の書いた内容を模造紙にまとめておき、掲示する。 ・ねらいとする価値についての自分の考えを明らかにさせる。
展開 40分	2. 資料の前半を読んで考える。	○サムは炊事長からトムに対して忠告するように勧められた時、どのような気持ちを抱いたか。 ・本当は忠告しなければいけないのだが、トムにきき入れてもらえないのではないか。 ・トムが怒って、たった一人の友達を失ってしまうのではないか。  ○トムに忠告をしなかったサムが、トムから責められた時、どんな気持ちだったか。  ・自分が忠告すればよかった。 ・トムは自分のことを本当の友達だと思ってくれていたんだ。 ・自分もトムの気持ちに応えたい。	・各自の体験を振り返らせながらサムの心の弱さを共感的に捉えさせたい。  ・自分の考えをワークシートにまとめさせてから発表させる。 ・「どうせ説教されるならサム、お前にしてもらいたかったぜ。」というトムの心情を的確に把握させたい。
	3. 資料の後半を読んで考える。	○トムからの忠告を素直にきき入れなかったサムについてどう思うか。 ・自分のことだけ考えていてひどい。 ・トムの本当の気持ちを分かっている。 ・本当の友達ならば、トムの忠告をきき入れるべきだった。	・ピエロの役柄についてトムから忠告を受けた時のサムの心情を的確に押さえさせたい。 ・サムの気持ちに共感させた上で、心の弱さを乗り越え、真の友情を築いていくことの大切さに気づかせたい。
終末 5分	4. 本時の学習を振り返り、まとめをする。	○今日の学習を通してどんなことを学んだか。 ・友達に忠告するだけでなく、友達からの忠告を素直にきき入れることが大切だ。 ・自分のことだけでなく、相手のことも考えてあげることが大切だ。 ・本当の友達をつくることは難しけれど、それを乗り越えていくことで友情が深まっていく。	・学んだことをワークシートにまとめさせてから発表させる。 ・本時を振り返らせながら、考えさせる。 ・真の友情を築いていこうとする意欲をもたせたい。

(3) 評価

- ・ 忠告することのできない弱い心を実感し、身近な自分自身の問題として考えることができたか。
- ・ 真の友情とは、互いに心を開き、ともに高め合うことができるかどうか、大切な点であることに気づくことができたか。